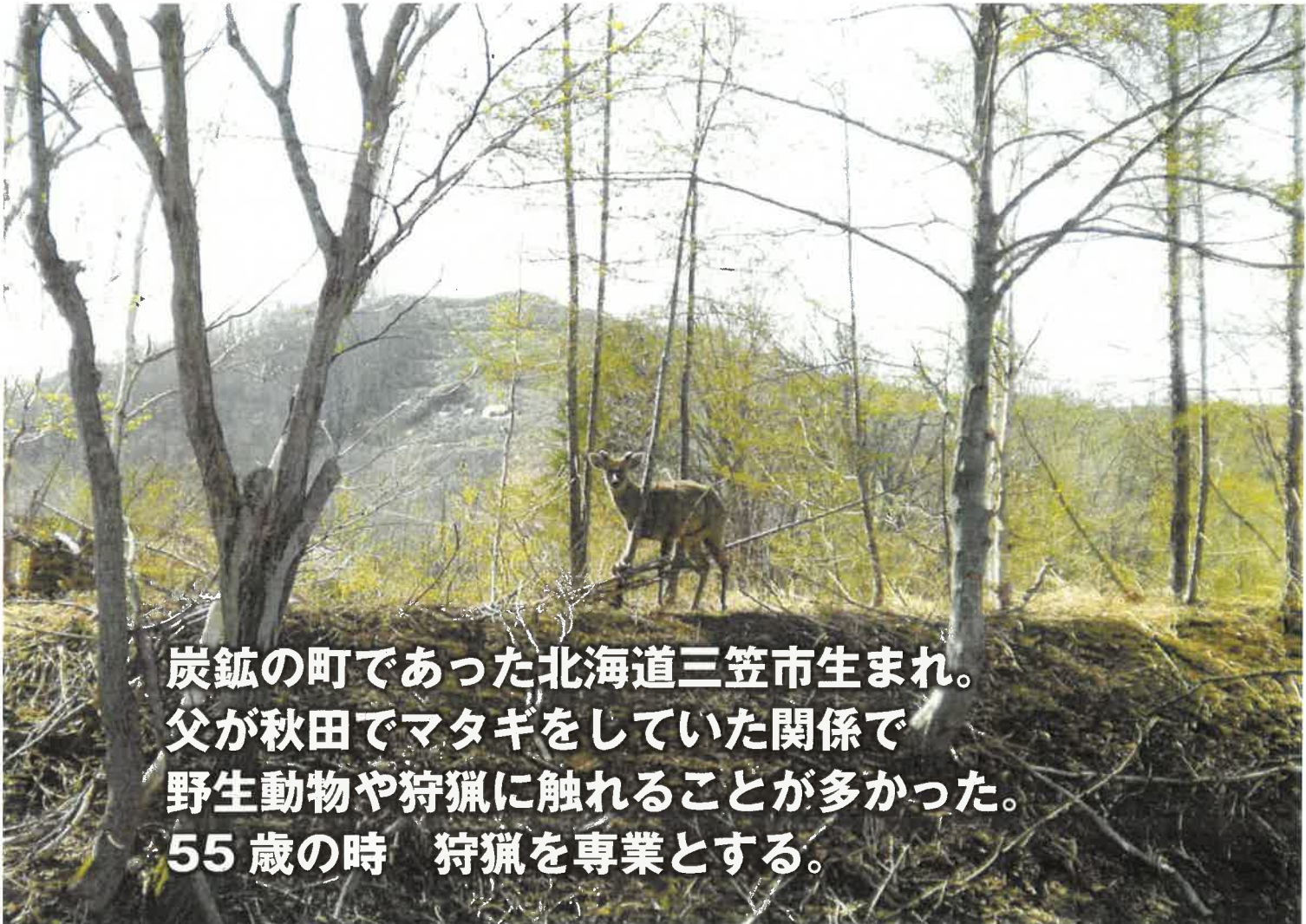


鳥獣被害対策の取組報告

原田 勝男

NPO法人 ファーミングサポート北海道 代表

2020年2月20日



炭鉱の町であった北海道三笠市生まれ。
父が秋田でマタギをしていた関係で
野生動物や狩猟に触れることが多かった。
55歳の時 狩猟を専業とする。

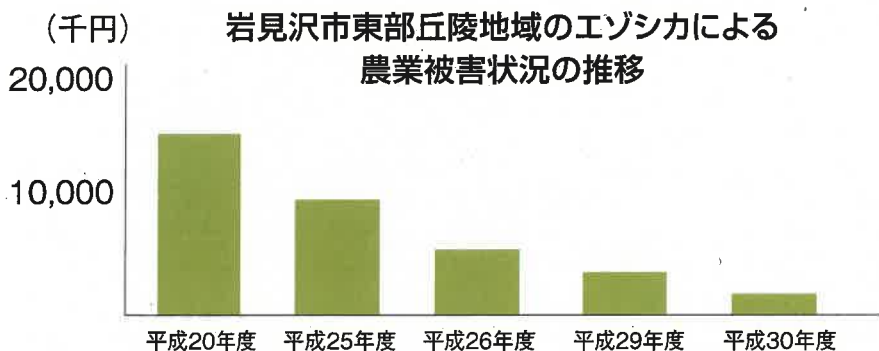


**60歳の時にシカ猟の最中に釧路管内の山中で
ヒグマに襲われる。瀕死の重傷から生還。
(※写真は別のヒグマ。狩猟での1枚)**



**地元地域農家のシカによる甚大な農業被害を
目の当たりにし、狩猟者として魂が奮い立った。**

農業被害額 10年で90%減少



捕獲数(エゾシカ)

年度	捕獲数
平成25年	253
平成26年	263
平成27年	294
平成28年	270
平成29年	195
平成30年	187

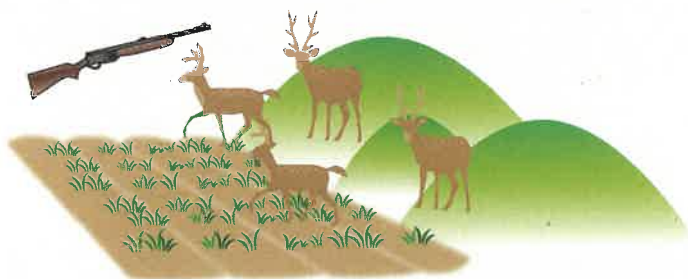


銃器による捕獲

銃器による捕獲では、撃つ場所が様々な場所なので、シカには、危険な場所としての認識がなされない。結果、シカの群れは戻って来る。

くくり罠による捕獲

原田式の罠の場合は、基本同じ場所に固定して仕掛けるため、同じ場所で何度もシカが捕獲されることにより、群れは、その場所を危険と認識する。



人間と動物の棲み分けの確立へ



ロケット式 くくり罠 開発

市販のくくり罠は逃げられることが多かった為、研究を重ね、より捕獲率のよい罠を開発。





アライグマの捕獲駆除
指導風景

